

光の子

発行／社会福祉法人 光の子どもの家
 編集／光の子 編集委員会
 〒349-11 北埼玉郡大利根町砂原277
 TEL／0480-72-3883
 振替／東京3-128022
 印刷／(株)ドモン企画



絵・中島 英子

あけまして
おめでとうござります。

社会福祉法人
光の子どもの家

園のように栄える

(ホセア書第十章 七節)

理事長 福島 勲

今日の日本、また世界の情勢
は、紀元前八世紀頃の聖書の世
界と酷似している。

南北イスラエルは物質的には
繁榮の時期であるが、国際情勢
は複雑で、北イスラエルはアッ
シリアに滅ぼされかかっている。
人々の不安は偶像バール神に
向かつて救いを求める。

この時、ホセアが召されてみ
言葉の予言に立つた。

イスラエルは神に対して背信
の行為を繰返し、神の怒りの審
きの前にある。イスラエルは悔
改めて創造の主なる神に帰る以
外に術はない。神に帰れと叫ぶ。
イエスの宣教の第一声は「悔
改めて福音を信ぜよ」であった。
(マルコ・十五)悔改めるとい
うギリシャ語は、変えるという

意味の字と理解という意味の字
との合成語である。悔改め福音
を信じることによって新しくさ
れる。最近、価値とか価値観と
か言う言葉をよく聞く、悔改め
て福音を信じることが、自己自
身を信じることが、自己自

身の価値と共に物事の価値觀を
新たにする根本的変革の根源で
ある。これなしでは我々の存在
の価値そのものを失ってしまう。

平家物語の冒頭にある名句の
様に、鐘の声に無常のひびきが
あり、沙羅雙樹の白い花の色に、
赤色で標識する平家の滅亡の予
徵が見られる如く、空しく滅び
の道を辿る他ない存在である。
予言者は政治的方策や科学的
操作などに及言する事なく、た
だ神を信じ神に頼る悔改めを主
張する。そしてそのものらに与
えられる祝福と恵みを、自然の
美しい繁茂繁榮で表現する。

十四章からは前章までの神の
怒りや裁きの峻烈な語調が一変
して、神の慈愛に満ちた言葉が
弁証法的に語り出される。

神は神のもとに帰る者に、恵
みの露となり、彼らはゆりの花
のように咲き香ると。
キリストはこの花のかくわし
さはソロモンの栄華も遙か及ば
ないと言われる。神のもとに帰

教頭さんは、運動不足解消のために一日に一回、時間を見ては学校の中や近くを歩いている様である。「あそこは一人で歩くのは恐いようですよ、静かで自然がそつくり残ってるんですよ。」教頭さんは今日のささやかな発見に満足である。「口マシンチックですね。どなたか僕と一緒に歩いて見ませんか、午後のプロムナード、しゃれてますよ。」と誘つた。清水さんはパソコンを打ちながら、石川さんは書類に目を通しながら、くす

いや、針金、小型テレビ、あらゆる物が捨ててあってその上を枯れた蔓草が覆っていた。「ひどい所だ」と私は思つた。「あそこにバイクが捨ててありますよ」と野口さんが言つた。自然が残されている雑木林も、道ぎわはゴミ捨て場と化している。

私たちは細い道を右に折れて歩いてみた。二・三分歩いてみると、そこは一変してきれいに手入れされた松林になつていた。下草は刈り取られ、熊手か箒らしい掃き目も見えていた。まるで公園の様である。所々に有刺鉄線が張られていて、どこからでも自由に入り出するわけには

少し西に歩くと、林の中に急に開けた広場のような所があった。焚火の跡があつて、そこに熊手や箒、ちり取りが置いてあった。箒の柄の所にすぐ近くにある宗教団体の名前が書かれていた。

深い竹藪があつた。竹の太さから孟宗竹であるらしい。ここは人間の手は全く入つておらず藪の外側の方にだけ今年の竹が生えていて、中の方には新しい竹の子の生える余地がないよう

龍かな自然が残っているとは知
らなかつた。学校からは目と鼻
の先である。私は、毎日忙しさ
に追いまくられて、必死で右往
左往している。そして、本当に
身近にある美しさに気づくこと
さえ忘れていたのだ。いつも前
方ばかりに気を取られ、目の色
を変えて走り回り、物の本質を
見ることを忘れてしまつてゐる
そして、いつの間にかその精神
さえずたずたに、よれよれにな
つてしまつてゐるのだ。

雜木林にて

エッセイ

1993年1月1日 第45号 隣人を自分のように愛しなさい。

月近い船旅で来日する。烈しく長い船酔の後「この頃はあまり泣かなくなつて、悲しいとか寂しいとか思う気持ちも薄らいできました。夫を信頼していますし、夫は天の父を信じているのですもの、神様は私たちを優しく導いて下さいます。どこに、何のためか分からなくとも、私たちはただ神様を信じることだけを知つていれば十分です」と、船中日記にある。

る者は、百花咲き競い、甘美な
実のたわわに稔る園のように榮
えると予言者は言う。
悔改めて神を信じるところ、
新しい使命観に立たされよう。
一八六一年來日した宣教師ジ

神のトライ

施設長 今関 公雄

新年に当たり、賀状がわりに
この一年間での足跡の大要をお
知らせ申し上げます。

先ず第一に、子どもたちのめ
ざましい成長があります。開設
七年半を経過し、その年齢構成
も高校一年生二、中学生四、小
学生三二、幼稚園児二となりま
した。なお、今春の高校受験に
二名（男、女）が臨みます。昨
年の二名（男）が受験勉強に懸
命に取り組んでいた姿が、今の
受験生と二重写しになる昨今で
もあります。

学習活動へのボランティアに
よる協力体勢も、地域の方々の
協力もあり、整えられてきまし
た。また、文化教養活動でのご
協力も從来から続けられており
ます。このような中で、少年剣

書道も初段を望み見るところに達して、折々は看板などで腕前を役立てる場面もでてきました。施設で育つ子どもたちにとつて、将来の社会生活で困惑すると思われることの一つに、文化教養面での素養があげられます。まだまだ不十分ではありますが、これらの習い事は、一方で劣等感の克服を志向し、他方で社会適応への手立てとして、何か一つは得意業を身につけて欲しいと願つてのものであります。

次に、地域の後援会の皆様との交わりの進展も特筆されます。正直のところ、子どもたちが日常生活を展開している地域社会との交流には微妙なものがあります。草取りのご奉仕や手打ち蕎麦の夕食会など、施設へ足を

点が生まれたことは、光の子どもの家に取つても力強いことがあります。地域に在る施設が、本来的な意味で社会化していくすなわち地域の子どもとして育つていくための一つの手がかりとなることが期待されます。

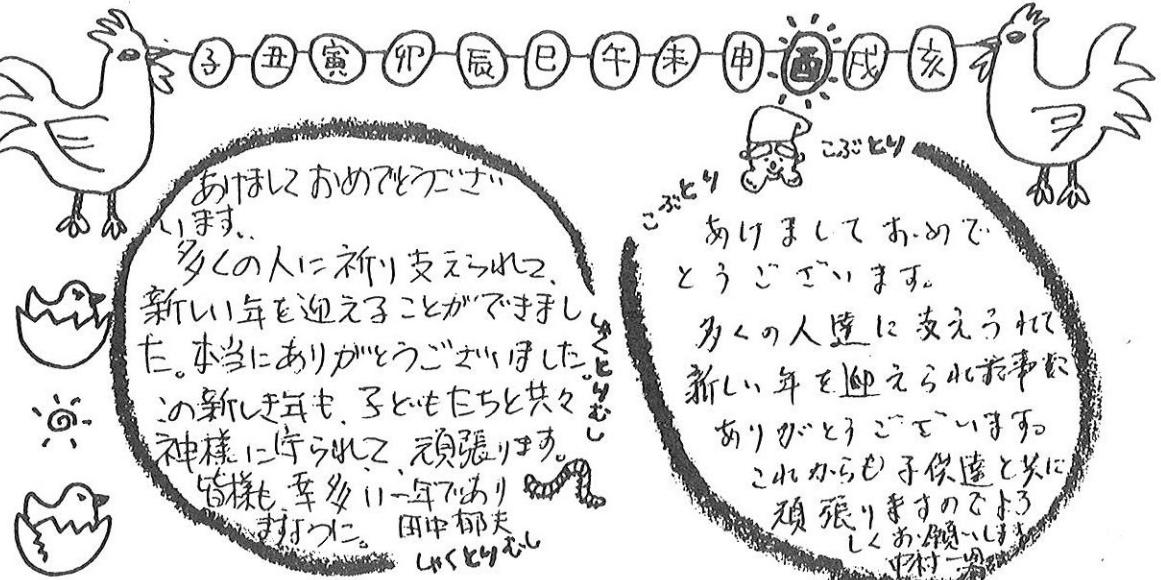
私は新春に当たり、この間の歩みの中に「神のドラマ」を想起します。いと小さき者やいと小さき群れを、あえて用いて、人智を超えたドラマを演じ、神の御手が偉大であることを示されました。

お心をお寄せ下さる皆様もまた、この意味での演技者です。

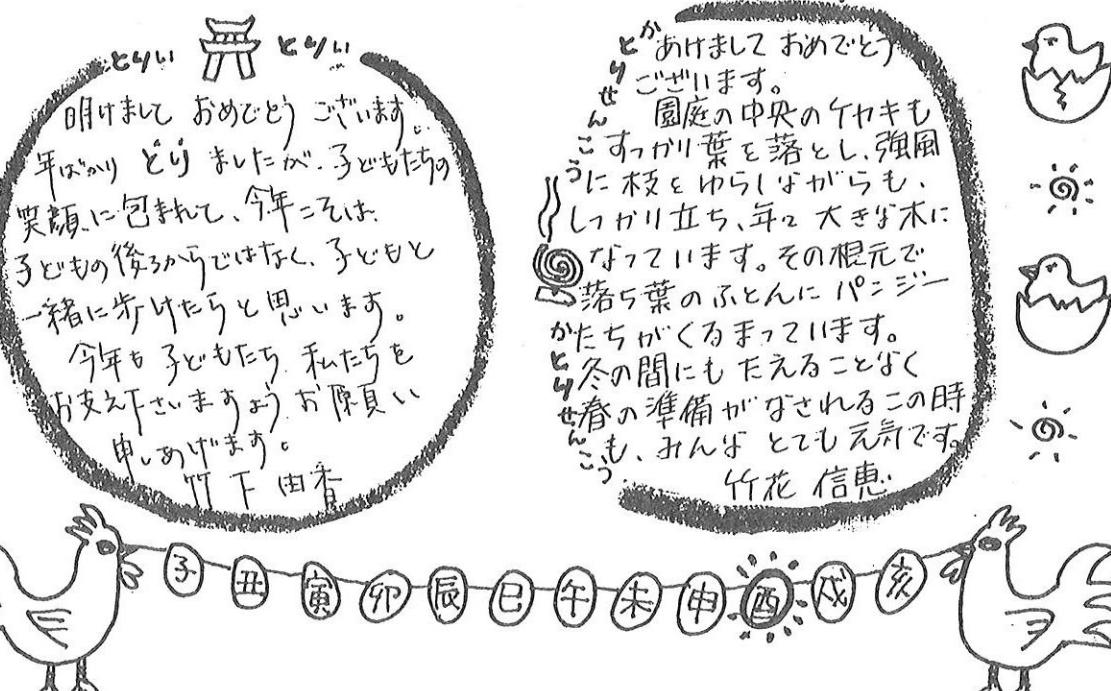
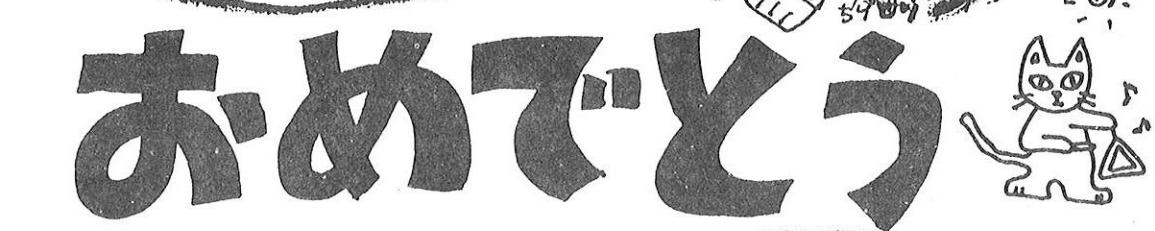
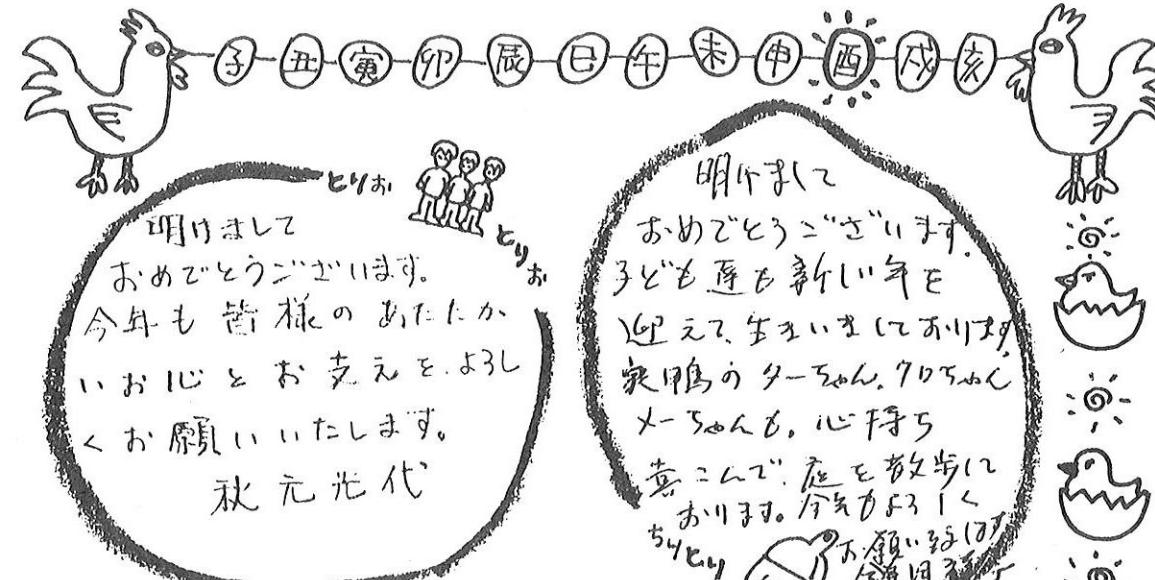
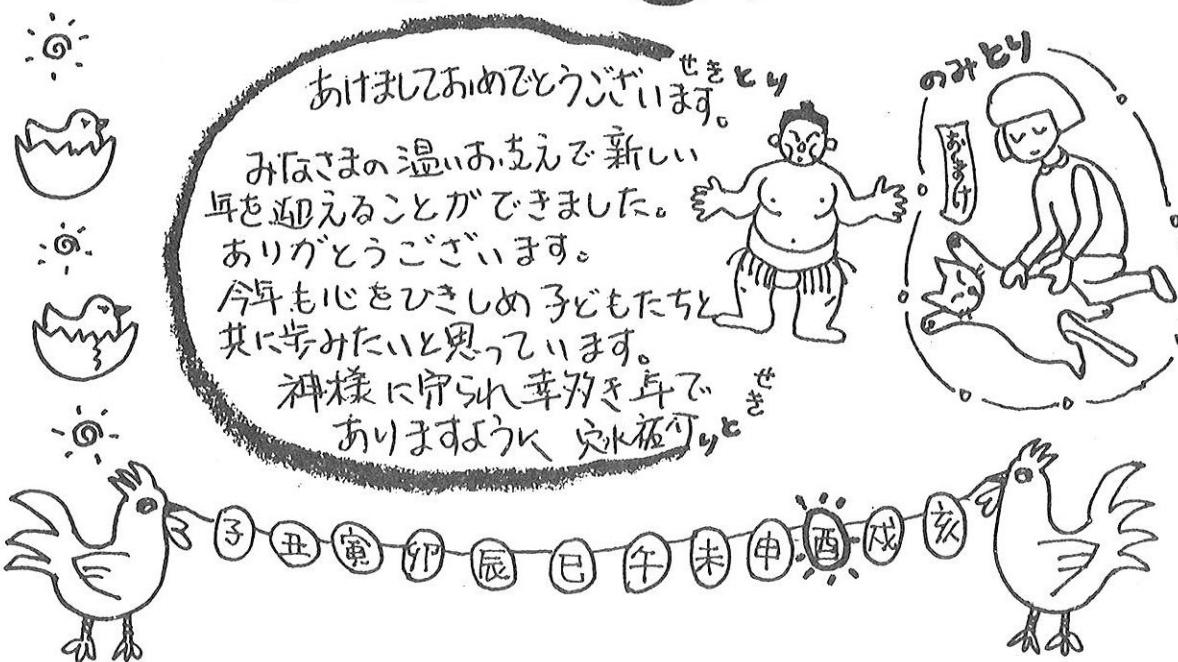
この年もまた、神はどのよくなドラマを展開されるのでしょうか。全てをゆだねつつ歩みたいと思います。

神のドラマ

運んで下さつてのものであり、共に歩み始めたとの実感を深くさせられております。光の子、ビーチの家の家も、地域社会での家庭養育支援事業を展開する用意を整えています。



あけまして



虹の国から

お正月

二年生 山下一志

しんねん あけましておめでとうございます。

ぼくたちは お正月には おもちをたくさんたべます。

みんなは なつとうもちがすきですか ぼくは大すきです。

みんなは おしうがつ どうしてすごしているでしようか。

ぼくたちのところには ふつていないけど ゆきは ふつていま

すか。そりで あそんだりするのですか。きよ年 ゆきがふつたの

で とね川の上手でそりあそびをしました。たのしかつたです。

みんなはたのしいお正月ですか。ひかりの子どものいえの

お正月は どこよりも 一ばんたのしいですよ 一かい あそびに

きてください ほんとに たのしいですから いつしょにあそびま

しょう なにしてあそぶかと かんがえておきます ではさようなら。

まなざし

佐藤家

謎の原田家日記

明けましておめでとうございます。新年に当たり、思いを新たにして、子どもたちと共に、本当の意味での豊かな生活創りに心を傾けたいと思います。

本年もよろしくお願ひいたします。

計り知れない大きな未来を予見させる子どもたち。子どもたちの夢はそれぞれ違い、その子らしさを秘めています。鷹文は野球選手、潔はお父さんと同じ水道屋さん、擢也は警察官、珠弥は花屋さんになりたいといいます。

幼稚園の時から「お花屋さんになるんだ。」と言っていた珠弥は、二年生になつてもそれを変えようとしませんでした。

「珠弥ちゃん、大きくなつたら花屋さんになるんだつけ?いや、違つたかな、看護婦さんだつけかな?」と、聞くと、「違う、私は教会の先生になりたい。」と、意外なことを言います。思いもよらない言葉に少し戸惑つていると、そのわけを話してくれました。

毎日曜日に通つてゐる東大宮教会の教会学校の佐野先生が、とても素敵で大好きなのだそうです。その佐野先生は、今、イギリスに留学して勉強をしています。

佐野先生も光の子どもの家が大好きで、いつも、優しい目を子どもたちに向けて下さるのを、私も感じおりました。

あの人によくなりたい、と言える人に出会うことは幸せなことです。佐野先生との関係も大切にしたいと思います。

敵な人を目標にして、頑張る子どもを応援し、疲れたら寄りかかり、壁にぶつかり、傷つき、夢を失いつになつた時、適切な役割が果たせる隣人でないと願つています。 石毛照子

子どもたちの季節

仙道家

新年明けましておめでとうございます。昨年もたくさんの御支援、ありがとうございました。本年も御指導、御支援をよろしくお願ひいたします。

仙道家の二階の四畳半の部屋には、子どもたちそれぞれの額縁がありがとうございました。本年も御指導、御支援をよろしくお願ひいたします。

絵や工作の好きな俊君は、自分の絵を飾っています。大好きなジユウレンジヤーも登場し、たつた一枚の絵の中にたくさんの中がつまつている絵です。

加津子は、三回目でやつと受かった剣道三級の証書と同じく剣道の暑中稽古の皆勤賞。これまでの彼女の努力は、大変なものだったうと思います。日常の中で、その努力に思いをはせることの何と少ないことか。

萌季の額の中には、今、何もありません。自分の絵を飾るのは嫌だと思います。「マラソン大会、頑張って賞状もらうから、そうしたら飾つてね」と言つていた通り、先日のマラソン大会では入賞。

待ちに待つた賞状がもらえる予定です。

でも、加津子の賞状からも、萌季の「絵を飾るのは嫌」という言葉からも、ありのままの自分には自信がないから、何か客観的に評価されるようなもので自分の存在を確かめたい、という悲しい思いが伝わってきます。それは私の関わりの欠けであり、まずさなのです。

何ができるでもいい、あなたがいること、それが素晴らしいこと、大切なことなどということを伝えられる関わりを、子どもたちが自分の絵を堂々と飾れるような生活を、この年こそできるようになります。

岩崎まり子

BB

日誌

九月十六日
十一月末日まで

- 二三日 草加市剣道大会小学生上級の部で安田三位入賞。
- 二五日 この夏お世話になつた青森の工藤氏よりりんごが。
- 田中春女理事懇親会の手術。
- 二六日 ハムコ会の藤野、矢島氏来訪。電機製品を沢山。
- 二七日 小学校運動会。
- 十月二日 SOS子ども村より職員三名来訪して宿泊研修。
- 三日 中学校体育祭。
- 四日 都立船形学園川崎氏、同伊豆長岡学園関氏一週間研修。
- 十一日 大谷氏より野菜を。
- 十六日 東洋英和女学院より生道家のみんなを夕食にご招待。
- 二十日 静岡ホームより職員九名が来訪して研修と懇談。
- 二一日 光の子どもの家後援会用品を沢山。ありがとうございました。
- 二三日 町内細間の栗原氏生活
- 二五日 アップルクラブ、東京

- 都動物保護管理教会、オールドッグセントー共催のお楽しみ会とドッグショート。
- 町内江森氏よりジュースを。
- 田中理事無事に退院。
- 三〇日 倭文鳥より文具を。
- 十一月一日 この夏お世話になつた長野県小海町の陶芸作家池端氏ご一家が来訪歓談。
- 愛の泉職員有志来訪きれいなお花をいただきました。感謝。
- 三日 第三回理事会開催。
- 第八回感謝の集い。福島黙牧師による感謝礼拝を。復活の主への感謝と力強い証と勧めをいたぐ。祝会を暖かい秋晴れの園庭で。光の子どもの家を思う会代表の岩崎謙一氏、大利根町東地区婦人会・愛育会会長の籠宮まさ子氏、練馬区在住の久保純氏にそれぞれ記念品と感謝状を送呈し、来賓の方々のご挨拶の後、東洋大学教授古川孝順氏のユーモアにも厳しさとやさしさをこめた乾杯でぎやかに、そして楽しく。飯田氏のアルトサックス、沢田氏のオカリナ、フイナーレは「武藏暴れ太鼓」が参画者を感動させた。

- 四日 北海道へ帰つて祖母と暮らす四人の兄弟を訪ね励まし、特に中学生になつたお兄ちゃんの進路問題などを語り合い、行方不明の母を探す。
- 埼玉県農林部よりこの秋の収穫物をいただく。感謝。
- 大利根剣友会鈴木先生より防虫、木場氏より衣類を。感謝。
- 第八回感謝の集い。福島黙牧師による感謝礼拝を。復活の主への感謝と力強い証と勧めをいたぐ。祝会を暖かい秋晴れの園庭で。光の子どもの家を思う会代表の岩崎謙一氏、大利根町東地区婦人会・愛育会会長の籠宮まさ子氏、練馬区在住の久保純氏にそれぞれ記念品と感謝状を送呈し、来賓の方々のご挨拶の後、東洋大学教授古川孝順氏のユーモアにも厳しさとやさしさをこめた乾杯でぎやかに、そして楽しく。飯田氏のアルトサックス、沢田氏のオカリナ、フイナーレは「武藏暴れ太鼓」が参画者を感動させた。
- 二二日 恒例の手打ち蕎麦会。
- 二三日 郡山の菅野クリニックの菅野先生來訪して養育相談。
- 二四日 恒例の手打ち蕎麦会。
- 二五日 東洋英和女学院より立派な裁断機をいたぐ。感謝。
- 二六日 東京リビングサービス神奈川支社、椅子、テーブルを、トラックいっぱい。感謝。
- 三菱銀行社会貢献室よりTVと電子レンジを三軒の家に。
- 二九日 待降節入り。(くら)

☆ ☆ ☆
お詫びと訂正

四四号一頁下段、「当方」を「東方」にお詫びして訂正します。

編集委員会

反射光

謹賀新年。これまでのお支えを心から感謝し、

☆志を語り合つてから十年が過ぎます☆過ぎてみると夢のような十年間。この間を、一体どうしていたのだろうかと思うほど、判然としません☆願つたことは現実に起きてきたことは、違う人がそれぞれ勝手にやつたことのように自我同一感の様なものがぼやけてしまいます☆夢中で走つてきましたらここにいたという感じで、ここにいるのは自分が思ひのせいではないよう思えるのです☆志を持ち選択し決意してきてさえも!☆選択や決意はおろか全力で拒否したかった施設生活を強いられた子どもたちにとって、ここでの数年はどんなにただつただうかと胸塞がります☆看護の世界で労苦しながらも将来を嘱望される江崎さんと法人の理事でもある仙道氏が本紙の水準を豊かに高めて下さいます☆新しい年に厳しい決意を迫られ、新しい世紀へのぞみます☆この年の皆様の豊かな祝福を祈りつつ。(哲)